



報道機関各位

平成29年4月24日
室蘭開発建設部 広報官

直轄砂防事業では初！ 「苦小牧川遊砂地」が土木学会北海道支部技術賞を受賞

この度、当部の事業である「樽前山直轄火山砂防事業苦小牧川遊砂地」が、4月21日に公益社団法人土木学会北海道支部から、技術賞の表彰を受けましたので、お知らせします。
なお、直轄砂防事業での受賞は初となります。

苦小牧川遊砂地は、樽前山の噴火に伴う火山泥流による被害軽減を目的として、平成18年度に着手し、平成28年度に完成した砂防設備です。

効果的な施設の配置や、軟弱地盤への対応と、ライフサイクルコストの縮減を図った構造形式、環境と調和するための構造の工夫が評価され、受賞となりました。

苦小牧川遊砂地の完成により、苦小牧川において発生すると考えられる融雪型火山泥流を捕捉し、苦小牧市街地での被害軽減及び安全度の向上はもとより、道央自動車道、国道36号、JR室蘭本線や苦小牧港などの機能保全効果が期待されます。

【参考】

○ 土木学会北海道支部技術賞とは

「公益社団法人土木学会北海道支部」が行う表彰で、「毎年度、北海道内の土木事業の中から土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められるすぐれた技術」に授与される賞です。

詳しくは公益社団法人土木学会北海道支部のホームページをご覧ください。

https://www.jsce.or.jp/branch/hokkaido/_contents/com/index.htm

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部 電話（治水課）0143-25-7045

治水課 課長 天野 聡（内線291）

治水課 上席治水専門官 松井 博幸（内線407）

室蘭開発建設部ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/mr/>

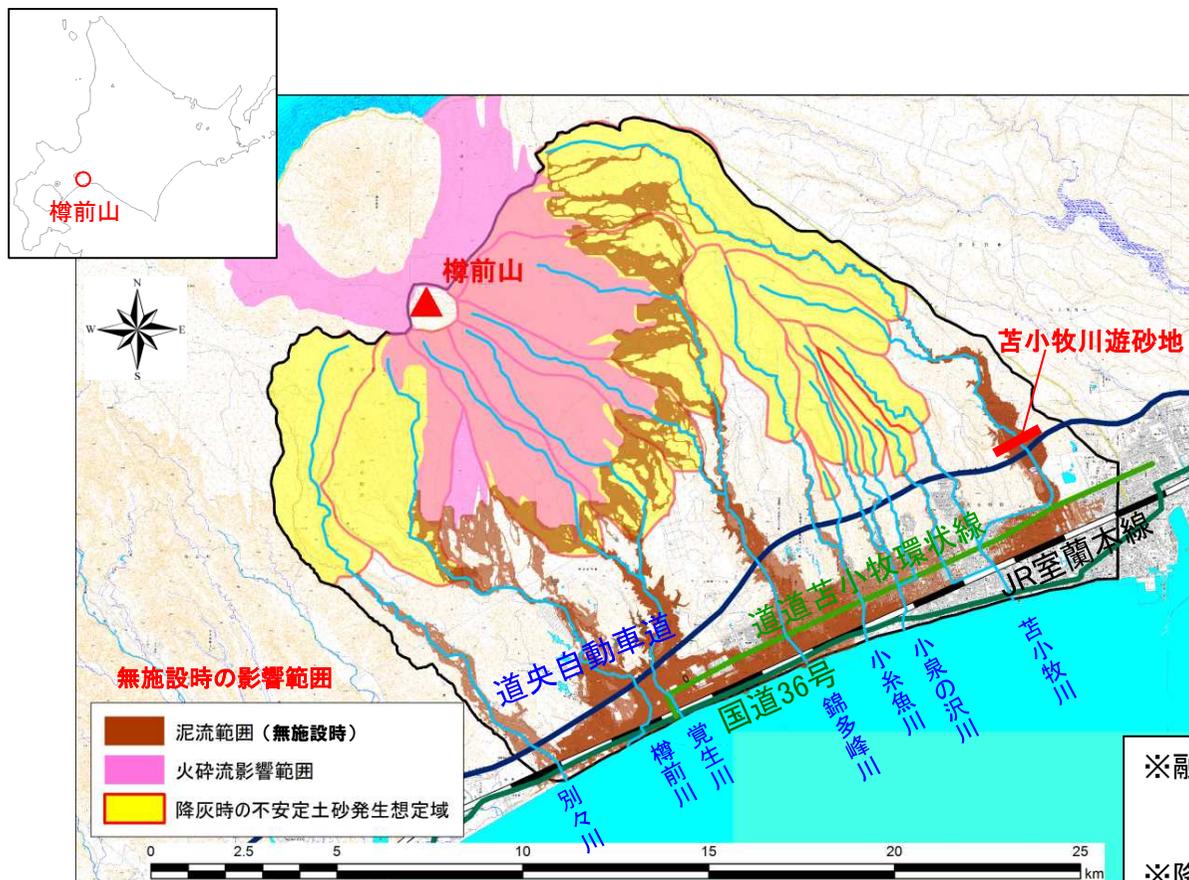


樽前山直轄火山砂防事業の概要

樽前山では、火山噴火に伴う泥流の氾濫を抑制し火山泥流災害の軽減を目的として平成6年度から直轄火山砂防事業に着手。

計画規模：1739年噴火と同規模(総噴出量：10億 m^3)
[過去200年程度で最大規模の噴火]

計画泥流量：融雪型火山泥流 32,140千 m^3
降雨型火山泥流 2,974千 m^3



想定される火山泥流の氾濫域(無施設時)

想定氾濫区域内の主な資産等

- 主要市街地：苦小牧市、白老町
- 主要交通網：国道36号、道央自動車道、JR室蘭本線
- 主要産業：紙・パルプ工業、非鉄金属、石油精製、化学、自動車等
- 主要農林水産物：酪農・畜産、ホッキ、スケトウダラ、サケ等

※融雪型火山泥流：火砕流等の熱によって積雪が融け、大量の水と土砂が一体となって高速で流下する現象

※降雨型火山泥流：降灰や火砕流等の堆積物が降雨などによって浸食を受け発生する泥流

苫小牧川遊砂地の概要



[施設諸元]
事業期間:平成18年8月～平成29年3月
泥流捕捉量:2,680,000m³(札幌ドーム約1.7個分)
堰堤長:1,074m
堤高:3.0m(越流部) 天端幅:12m(越流部)
堰堤形式:土堤

[概要]
苫小牧川での砂防事業は平成18年度に着手。
平成29年3月に苫小牧川遊砂地が完成したことにより、
融雪型・降雨型火山泥流ともに整備率が100%となった。

軟弱(湿地)な基礎地盤上での整備となるため、緩速盛土工を実施

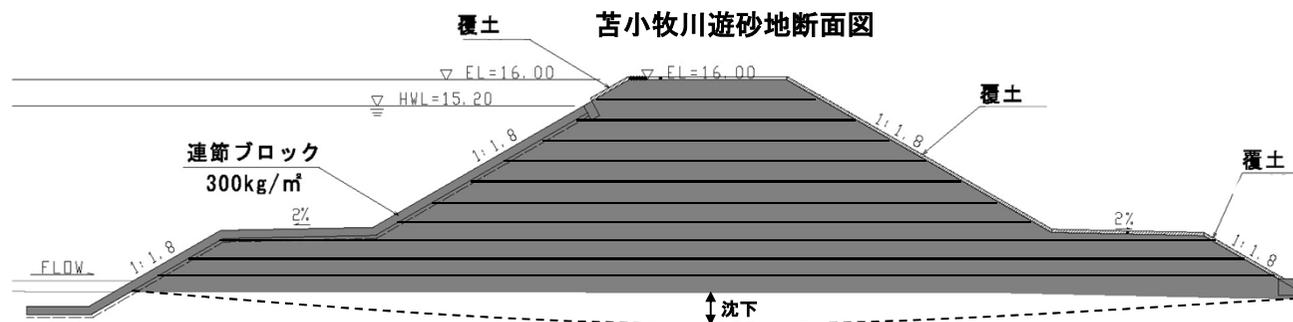


軟弱(湿地)地盤状況



緩速盛土施工状況

緩速盛土工のイメージ



軟弱地盤に対応するため、1層の盛土をするごとに、数日間盛土を休止し、沈下観測をしながら、ゆっくり確実に盛土を施工しました。